

第6回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会 会議録

日時：令和3年3月16日(月)18:45～20:15

場所：多治見市立笠原中学校 会議室

【出席者】

委員：水野(豊)委員、河口委員、玉置委員、渡邊委員、鈴木(千)委員、
稲葉委員、森本委員、水野(仁)委員、鈴木(稔)委員、中嶋委員、
加藤委員、前田委員、河地委員、高橋委員

事務局：教育長、副教育長
教育推進課 東山、山田、田中、横山
教育総務課 長谷部、高田、大嶋

【欠席者】

委員：なし

(要点筆記)

開会	
会長	・第6回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を開会します。
次第1	教育長挨拶
教育長	・夜分お忙しいところお集まりいただき、心よりお礼申し上げます。現在、3月市議会も開催されているところでありますが、笠原校区での義務教育学校の建設について議案提案しています。笠原以外の校区での見通しや調理場設置の有無についての質問はありましたが、笠原の地域に合致した学校づくりに期待する声が多く、このまま可決されると思っています。先週は小泉小学校新校舎の内覧会を行い、素晴らしい学校の完成とともに子どもたちの笑顔を見ることができ大変嬉しく思いました。笠原校区での義務教育学校は、小泉小学校の倍ぐらいの規模をイメージしていますが、こちらも素晴らしい学校にしていきたいと改めて思いました。本日は、主に基本構想(案)について議論していきます。本日もどうぞよろしく願いいたします。
次第2	(仮)多治見市立笠原義務教育学校整備基本構想(案)について 1-(1)(2)
会長	・それでは、次第2の別紙資料「(仮)多治見市立笠原義務教育学校整備基本構想(案)」をご覧ください。 1 ページ目「1 基本構想に基づく整備方針」の、 1-(1)「はじめに」及び、 1-(2)「総合計画・教育基本計画に基づく小中一貫教育の方針」について事務局に説明を求めます。
事務局	(事務局より説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・(2)にある「あたたかい人間関係づくり」と「思いやりや支えあいの意識」の違いは何でしょうか。意味が同じであれば、後者の方が具体的

事務局	で分かりやすいと思います。
事務局	・表現が重複している部分は削除し、シンプルにする方向で修正していきたいと思います。
委員	・(2)にある「従来から幼保小中一貫教育を推進してきた笠原校区において一貫教育の効果をさらに昇華させるため」という表現は、確かに笠原では昔から幼保小中一貫教育を行ってきていますが、理由が不足しているため、義務教育学校化へのこじつけのように聞こえてしまうのではないかと思います。
委員	・現時点では小学校と中学校が2つに分かれています。これを1つにし、9年間の学びの学校とすることが目的だと思います。
事務局	・義務教育学校とする目的には複数の要素があり、短絡的な判断によるものではない表現に修正したいと思います。
委員	・(2)の文中に「街」や「良さ」のように、他の文とは異なる漢字表記がされていますが、何か意図があるのでしょうか。
事務局	・総合計画や基本計画の原文をそのまま引用していることによるものです。その他の意図はありません。

次第2 (仮)多治見市立笠原義務教育学校整備基本構想(案)について 1-(3)

会長	1-(3)「義務教育学校の教育理念と教育重点」について事務局に説明を求めます。
事務局	(事務局より説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・教育目標は校長先生ごとに変えていくものでしょうか。
委員	・一般的にはこれまでのものを継続し、その時の子どもの姿や時代に合わせて加筆修正していくことが多いですが、校長先生の中には大きく変える方もいますし可能です。昔からのものを、ずっと変えずにそのまま継続するというのは、今は難しいかなと思います。
委員	・校長先生からすると、教育目標がすでに決まっていた方がよいものでしょうか。
委員	・教育理念が明確になれば、その理念に基づいて具体的な目指す学校像を考え目標を決めていけばいいと思います。現段階で教育目標を決めてしまうのは少し早い気がします。
委員	・教育理念とはどういうものですか。
委員	・教育目標の中にあったり、目指す子ども像の中にあったりと、様々な形があります。この基本構想の文中には地域に根ざした教育という内容が少し多すぎるのかなとも思いますが、例えば、「地域に根ざした教育を大事にしながら未来を切り開く」という表現で理念を設定しておき、そこから教育目標へとつなげていく方法がいいと思います。
委員	・時代が変わっても「知徳体」の根底の部分は不変だと思います。表現や言い方は変わっていくと思いますが、「創造」「共生」「自主性」の3要

素は必須だと思います。こうした要素が子どもに分かりやすい形で表現されていればいいと思います。

委員 ・私は笠原小学校の卒業生ですが、「やさしく、かしこく、たくましく」という教育目標がすごく分かりやすくて今でも覚えています。先程の意見のように理念だけを決め、教育目標などは学校現場に任せてもいいのかなと思います。

委員 ・教育理念、教育目標、目指す子どもの姿、これらはどう違うのでしょうか。

委員 ・段階的により具体的に示していくものとなります。

委員 ・教育目標を「以下のとおり」や「決めました」と示すのではなく、「これまでの教育目標は〇〇〇として学校運営してきました」と表現しておき、新たな教育目標へとつながる形で示しておくのもよいかと思います。

委員 ・「iii 笠原義務教育学校の目指す子どもの姿」の前期課程の②に「誰とでも仲良く協力する子」とありますが、保護者の立場からするとこの表現は子どもに無理強いをしてしまうと感じました。誰とでも仲良くすることは理想ではありますが、現実には様々な理由で仲良くすることが難しい部分があります。「お互いの良さを認め合っていく子」や「ちがう立場の子とも折り合う子」というような表現にした方がいいと思います。

委員 ・子ども達は十人十色で、それぞれが違い、それぞれがちがうよさを持っています。人との違いを排除するのではなく、お互いを理解し合うこと、その結果仲良くなれるという意味の言葉に直すといいと思います。

委員 ・私も同様の意見で、周りの友達を認めたり、励ましたり、応援できる子になってほしいと願っています。

委員 ・私も同様の意見で、学校では「仲間のよさ見つけ」も行っていますし、日常の教育活動へ結びついてくると思います。

委員 ・「iv 笠原義務教育学校の教育重点」のウの①に「笠原校区独自の教科」とありますが、国が定めている教科には入らないと思うので「学び」という表現に変えた方がよいと思います。

事務局 ・前回の会議で「インクルーシブ教育」と「キャリア教育」についても、文言として入れた方がいいという意見がありました。「キャリア教育」という文言はまだ入っていませんが、入れるとしたらどういう形がよいのでしょうか。

委員 ・教育重点のイの①に、キャリア教育を意味する「人との関わりの中での社会性や自立性を育む」という文言があるため、このままで問題ないと思います。

委員 ・英語教育については特に力を入れているところであるので、教育重点のアの③に「とりわけ英語教育においては・・・」と補足して強調しておくのはどうでしょうか。

委員 ・分かりやすくなってよいと思います。

次第2 (仮)多治見市立笠原義務教育学校整備基本構想(案)について 1-(4)(5)

会長	続きまして、 1-(4)「小中一貫教育推進における視点」及び、 1-(5)「義務教育学校の学年段階の区切り」について事務局に説明を求めます。
事務局	(事務局より説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・義務教育学校のメリットとして「中1ギャップ」をなくす効果があるため、学年段階の区切りの設定は「4・3・2」を想定しておくのがいいのかなと思います。
委員	・先日、桑原学園の校長先生と電話する機会があり、学年段階の区切りについて伺ったところ、「6・3」が今の桑原学園には適していると感じているとのことでしたが、前期課程・後期課程は全国共通で変わることがないため、試行錯誤しながら笠原校区で最適なものにしていければいいと思います。
委員	・「4・3・2」を想定しておくのがいいのかなと思います。現在、中学校では2クラスしかないため、生徒会活動では2クラスから役員を選出しています。「4・3・2」であれば、最後の2学年の生徒に学校のリーダーになってほしいと思います。一方で、開校時の円滑な学校運営を考えると、他校と揃った「4・2・3」や「6・3」の方がスタートとしてはいいのかなとも思います。
委員	・保護者の立場からですと、まだ義務教育学校は一般的ではないため、他の学校や私立の学校との絡みを考えると、「6・3」や「4・2・3」といったスタンダードな区切りの方が安心感があります。また、今ある行事については名称の変更はあってもなくなることはないといったことですが、「4・3・2」となることで、例えば小学校の卒業式にあたる行事の内容が薄まってしまうのではという心配もあります。
委員	・前期課程と後期課程でそれぞれ修了証の発行や修了式はあるという認識でよいですか。
委員	・前期課程、後期課程ごとに修了式を行うことを想定しています。「4・3・2」とした場合であっても、あくまで学年段階の区切りの設定であって教育課程とは別物です。これにより、転入出者が発生した場合も問題は起こりません。既存の「6・3」という枠とどのように折り合っていくのか、たくさんの可能性がありますので、よく検討し配慮していく必要があると思います。

次第2 (仮)多治見市立笠原義務教育学校整備基本構想(案)について 1-(6)

会長	続きまして、 1-(6)「義務教育学校における特色ある教育活動」について事務局に説明を求めます。
----	---

事務局	(事務局より説明)
会長	・只今の説明について、意見・質問等はありませんか。
委員	・「iv 家庭・地域との連携・協力」の〈ふるさと学習の推進〉に「1年生から9年生までのすべての保護者と教職員が協働し、運動会や文化祭に参画したり・・・」とありますが、9つの全学年で行事を行うと決まっているのでしょうか。
事務局	・決まってはいません。行事について現状と変わることはないと考えていますが、義務教育学校となることで、小中学生が一同に参加する行事が生まれてくると想定しています。
委員	・既に義務教育学校となっている学校での運動会や卒業式の取り扱いについて資料が手に入れば見てみたいです。
事務局	・昨年度予定していた視察は、コロナ禍で残念ながら中止となってしまいましたが、具体的にイメージできる資料の収集や視察について検討していきます。
委員	・9年間を「4・3・2」や「4・2・3」に区切って教育活動を行った時に、前期課程や後期課程における目指す子どもの姿は分かりますが、3つのグループでのそれぞれの目指す子どもの姿といった具体的なイメージができません。
委員	・小学校から中学校への接続を、円滑で緩やかにどう実施していくかが重要だと思います。そのための指導体制の確立やゴールを見据えた教育活動を仕組むことが大事で義務教育学校では可能になると思います。
委員	・建設について考えると、例えば学年段階の区切りを「4・3・2」の一択だけで提示した場合、業者は「4・3・2」の学年グループで教室が隣接するよう設計します。しかし、「4・2・3」もあり得ると提示すると、設計・建築費用も増えるため、選択肢をなるべく絞ることが理想ではあると思います。
委員	・校舎が完成すると、学年段階の区切りは変更できなくなるということでしょうか。
事務局	・変更は可能です。ただし、設計の段階でひとつに絞って業者へ提示してしまうと、柔軟に対応することができなくなってしまう恐れがあるため、複数のパターンから選択できる柔軟な設計を業者に提案していただくと考えています。具体的には、多目的室やフリースペースを設置して、フレキシブルに教室へ変えられるような構造を想定しています。
委員	・「i 教育課程の工夫改善」に〈習熟度別学習の充実〉について記載してありますが、ここまで明示していいのかと思いました。教科担任制は問題ないと思いますが、他の学校と比較して教員が多いという訳ではないため、この内容までは厳しいかと思います。また、〈発信型教育の推進〉に「世界に向けて発信できる教育を行います」という記載がありますが、これもかなり高い目標であるため、厳しい内容ではないかと思

事務局 委員 事務局	<p>ました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指摘部分の内容について見直しをかけたいと思います。 ・繰り返しになるのかもしれませんが、学年段階の区切りについて、転校生を受け入れる際に問題は起きないでしょうか。 ・全国共通である前期課程・後期課程に基づいて学校は運営していますので、転入出者が発生しても問題になることはありません。
次第3 その他	
会長 事務局 会長 委員 委員 会長 事務局 会長 委員 会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次第3「その他」に移ります。 <p>3-1. 「小泉小学校内覧会の報告」について事務局に説明を求めます。 (事務局より説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内覧会に行かれた方で感想等はありませんか。 ・トイレや教室を主に見ました。すべてバリアフリーになっており、利用しやすそうだと思います。来場者は全員ワクワクしていて、楽しい学校だと感じているようでした。 ・新校舎はもちろん素晴らしいもので笠原での義務教育学校の建設をイメージしながら見てきました。研究会で議論している内容が、実際に建設される学校にどれだけ反映されるのかが気になるところです。また、笠原はタイルの街なので、義務教育学校のいろんな場所でタイルを生かしてほしいと思います。例えば、タイル組合に事前にアドバイスをもらうのもいいかと思います。 <p>3-2. 「笠原義務教育学校建設に関するアンケート」について事務局に説明を求めます。 (事務局より説明)</p> <p>3-3. 「学校長」について一言お願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日は、笠原中学校の校長室に飾ってあります笠原出身の画家である林雲鳳先生の絵を持ってきました。このような多くの素晴らしいものが笠原らしさとして受け継がれていくことを大事にしていきたいと思います。義務教育学校でも子どもたちに是非見せてあげたいです。 <p>3-4. 「事務連絡」について事務局に説明を求めます。 (会議録や委員交代について説明)</p>
次第4 今後のスケジュールについて	
会長 事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・次第4「今後のスケジュールについて」事務局に説明を求めます。 (事務局より説明)
副教育長挨拶	
副教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日もたくさんのご意見をいただきありがとうございました。本日は基本構想の前半部分、主にソフト面について整合性や妥当性という点でご意見をいただきました。早急に見直していくことと、時間をかけながらじっくり検討していくことがあると感じました。次回の会議では主にハード面に関する内容となりますが、本日もいただいたご意見をまとめ、

次回につなげていきたいと思ひます。本日はありがとうございます。

閉会

会長

・以上で、第6回多治見市笠原幼保小中一貫教育研究会を閉会します。

—以上—